

生産者通信

(有)エコ・ライス新潟
定価 100円(送料込)

山田錦を80%作付けする巨大農場

圧倒的な大農場と機械力、アメリカの米生産現場のリアル

その1 報告者:中野正崇



アメリカは大農場に大きな機械を入れて米を生産しているのだから、誰もが想像するでしょう。しかし実際にそれを目の当たりにした時、私は度肝を抜かれ、もはや笑うしかありませんでした。訪問した、イズベルフームの紹介をします。農場はアメリカ南部のアーカンソー州の州都、リトルロックから車で50分ほどのところ

ろに位置します。農場主のクリスさんと息子マークさんを中心に、1,200haを8人で作業をこなすそうです。圃場1枚が40ha。セスナで種まき。収穫は1日最大60ha。340馬力のトラクタが3台、455馬力の汎用コンバインが2台。12メートルの荷台を持つ紐運搬用のトレーラーが3台。幅10〜30mの作業機が何台もあり、籾が650t入る乾燥機が10棟などなど。見たことのない規模の機械が山ほど置いてありました。機械自体がかなり高額なのだろうと思つて、340馬力のトラクタ

の価格を聞いてみました。1台につき1ドル60円計算で約7千円と

のことは、イズベルフームでは10年ほど前からトラクタやコンバインのリース契約を利用してるとのことでした。近年日本でも農業機械のリース契約が増えてきています。アメリカではかなり前から当たり前だったようです。実際にトラクタを運転させてもらいました。6段のステップを駆け上がると広いキャビン



から広大な圃場が見えました。自動操舵システム搭載はもちろん、多数のスイッチ、快適なシートや連絡を取り合う無線機が装備されています。独特のエンジン音とともに走りだせば、340馬力の力強い走りの中にも、旋回や作業機の昇降などではしなやかな動きが感じられました。子供の頃、大きな乗り物に乗ってうれしく思っ



場へ引き上げるだけでも大変でしょうから、おそらくはほとんどの修理を現場で行うと思います。掃除や簡単な修理は自分達ですとおっしゃっていました。大きなトラブルを避けるためにシーズン前によく点検してもらうとのことでした。

《来月号に続く》

たことはありますが、この歳になつて当時と同じような高揚感を味わえるとは思っていませんでした。これだけ大型の機械であれば修理になると大変だなど容易に想像できません。そもそも工場へ引き上げるだけでも大変でしょうから、おそらくはほとんどの修理を現場で行うと思います。掃除や簡単な修理は自分達ですとおっしゃっていました。大きなトラブルを避けるためにシーズン前によく点検してもらうとのことでした。